

関西大学特色GP・07年度経過報告

学校インターンシップを通じて 若者はどのように育っていくのか

特色GP「人間性とキャリア形成を促す学
校Internship」第3回シンポジウム

2008年1月12日

取組責任者 文学部教授 山本冬彦



関西大学の特徴(1)

- 教員養成系大学ではない
- 教育学部をもたない
(本年度より定員50名の初等教育学専修を文学部に設置)
- 10学部を擁する
- 教育実習を体験する学生は、毎年、400-500名
- 学校インターンシップ体験者は全学部にあたっている



本取組のコンセプト(1)

- キャリア形成をうながす
 - 大半の学生にとって、教職はひとつの選択肢
 - 学校現場での体験をとおして自分の適性を確認する
 - 教育実習よりまえに、教員の仕事、学校現場を多様な面から知るチャンス



本取組のコンセプト(2)

- 学生の人間的成長をうながす
 - 年少者に接することで、「おとな」としての責任と自覚を身につける
 - 教職につかないとしても、社会人、家庭人になるには必要＝広義の教養教育
 - 子どもや人間、社会に対する理解を深める



関西大学の特徴(2)

- 学生数(学部・大学院)
約28,000人
- 全国から入学 学生の
居住地・出身地が広範
囲
 - 自宅通学生も、かなり広
い範囲にわたる
- 連携協力協定を締結
した教育委員会の数
 - 2003年度 4
 - 2004年度 8
 - 2005年度 3
 - 2006年度 2
 - 2007年度 1

計 18



関西大学の特徴(3)

- 教育委員会との連携の広がり
 - 2003年度： 大阪府、神戸市、大阪市、長岡京市
 - 2004年度： 高槻市、吹田市、東大阪市、茨木市、箕面市、豊中市、摂津市、京都市
 - 2005年度： 伊丹市、寝屋川市、河内長野市
 - 2006年度： 宝塚市、八尾市
 - 2007年度： 藤井寺市



本取組のコンセプト(3)

- ジェネレーションギャップの解消
 - 大学生と年少の世代
 - 現役教員と大学生
 - 大学生を介した、教員と児童・生徒
 - 世代間を越えた社会的課題の共有と学びの場の創造

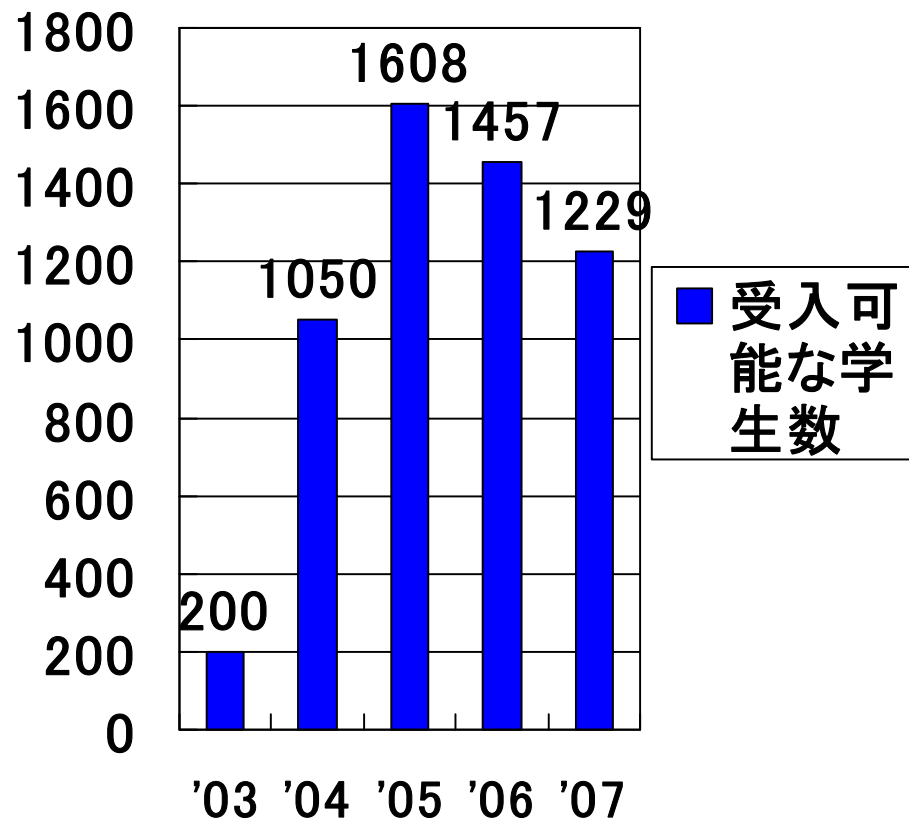
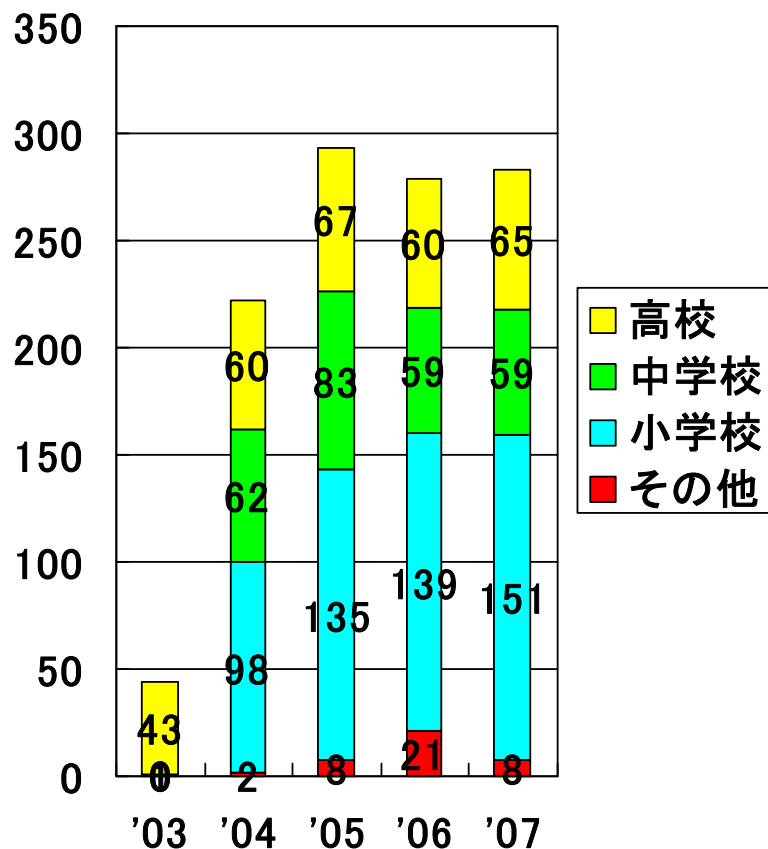


本取組のコンセプト(4)

- 若い世代を介した小中高大連携
 - 募集説明会、受入校担当者連絡会議、事後報告会、シンポジウムの開催
 - 若い世代を教える組織として、小中高大が連携する場の開拓
 - 社会の変化に伴う子どもの育ちの変容や教育環境の変化に対応した教育の確立

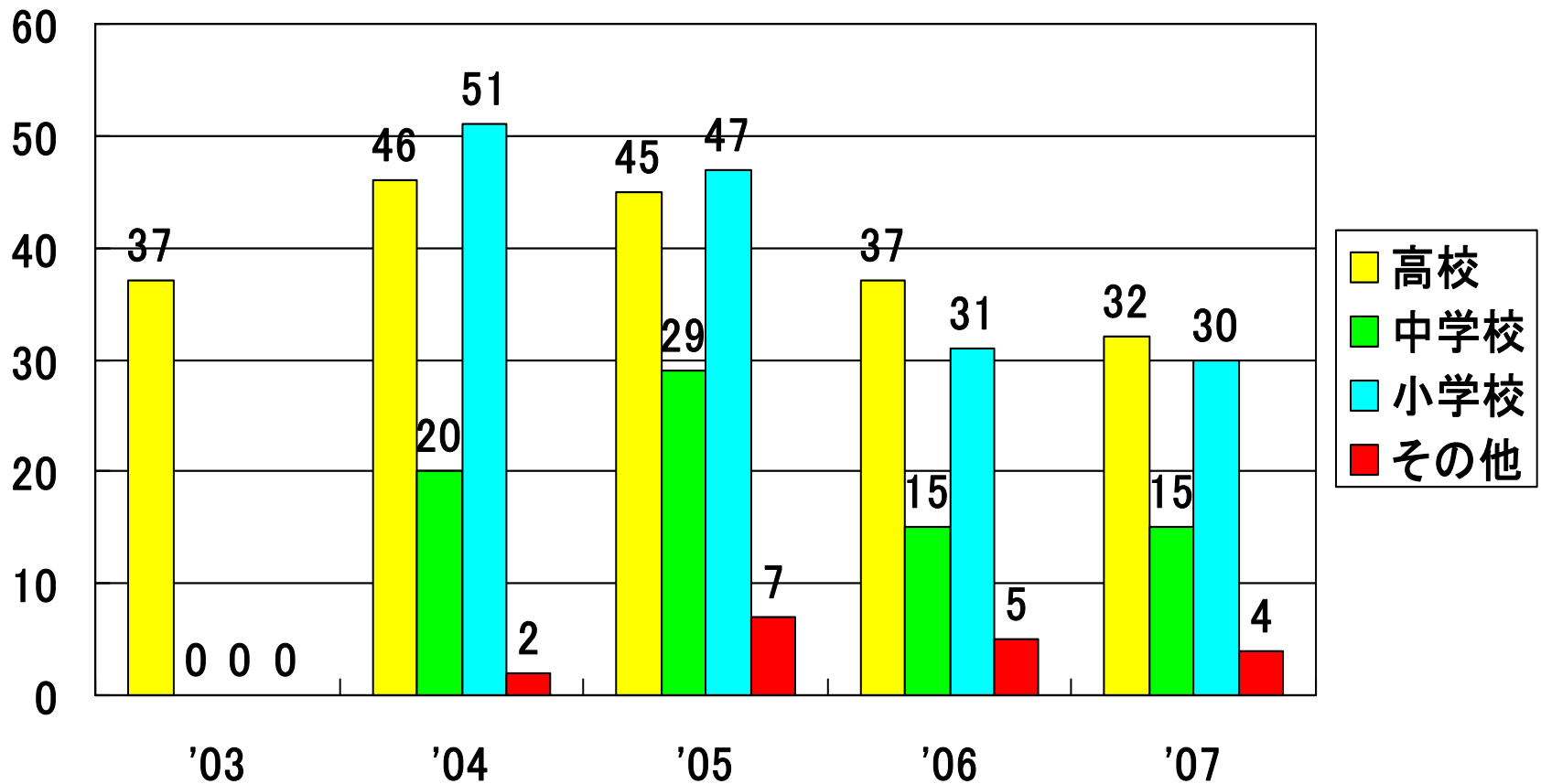
本取組の実績(1)

受入申込校と受入可能学生数



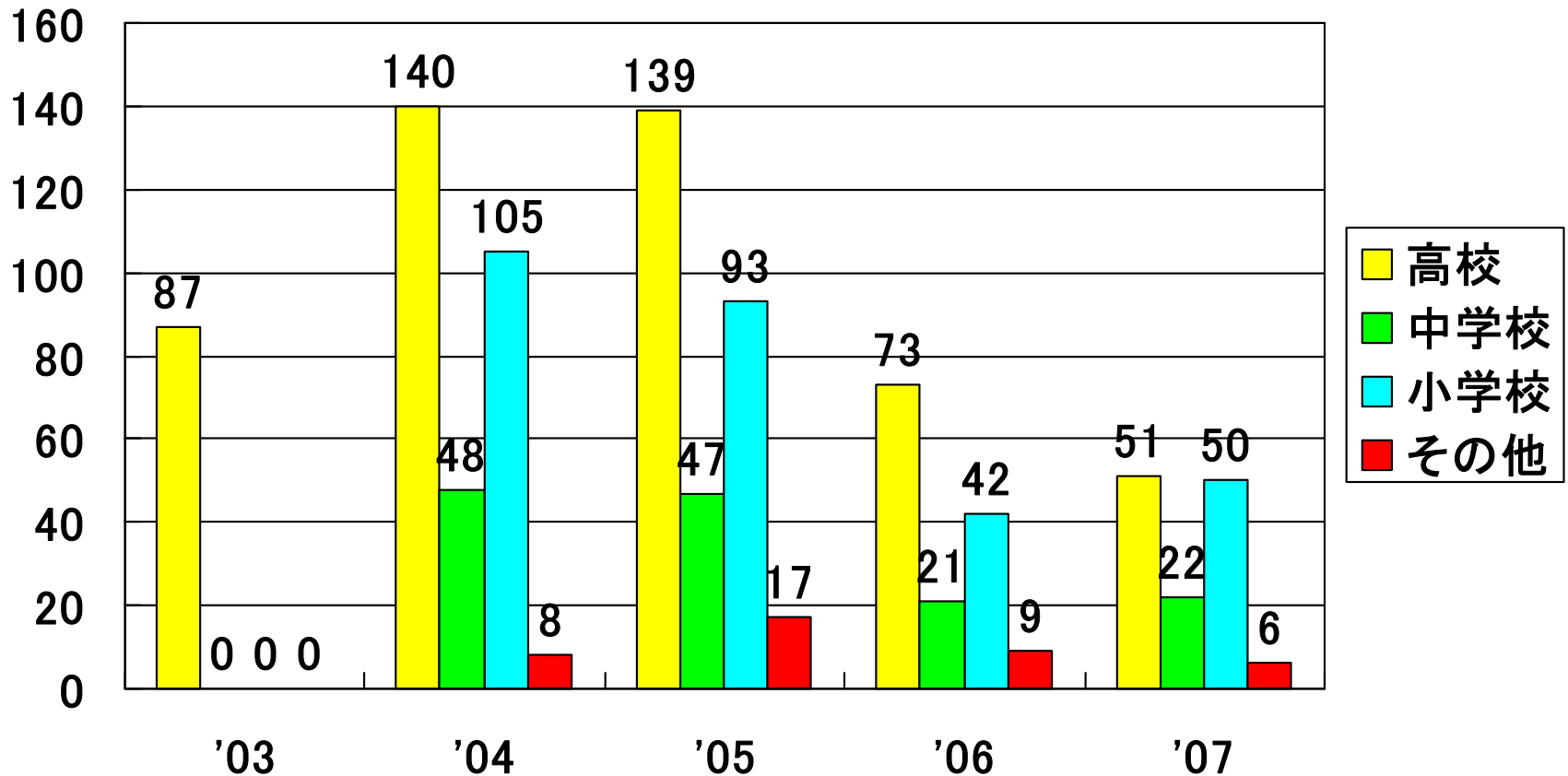
本取組の実績(2)

実際に学生を派遣できた学校数



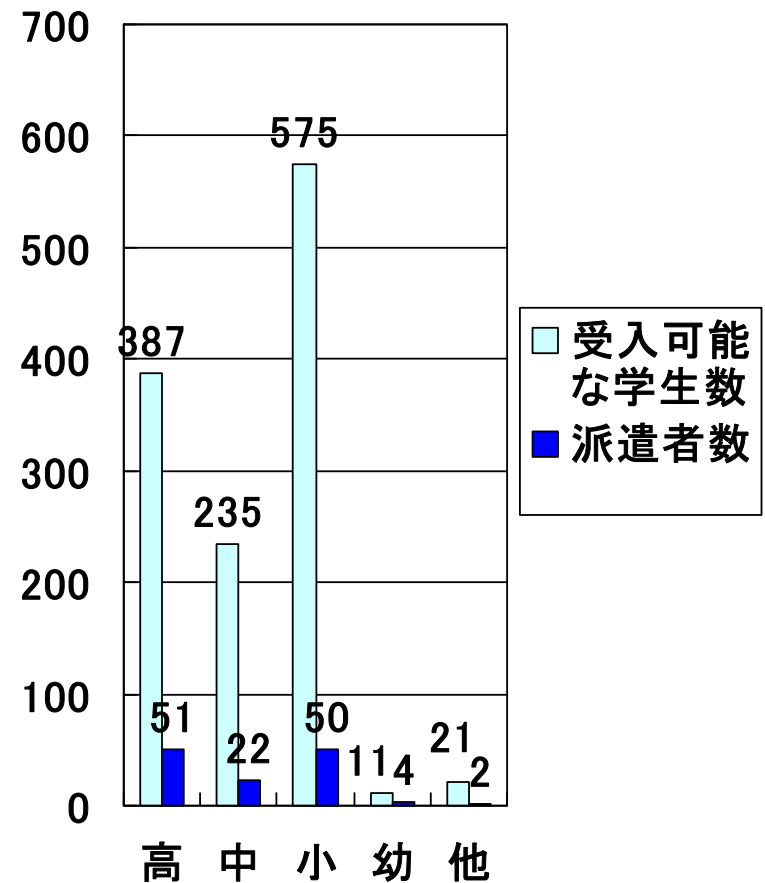
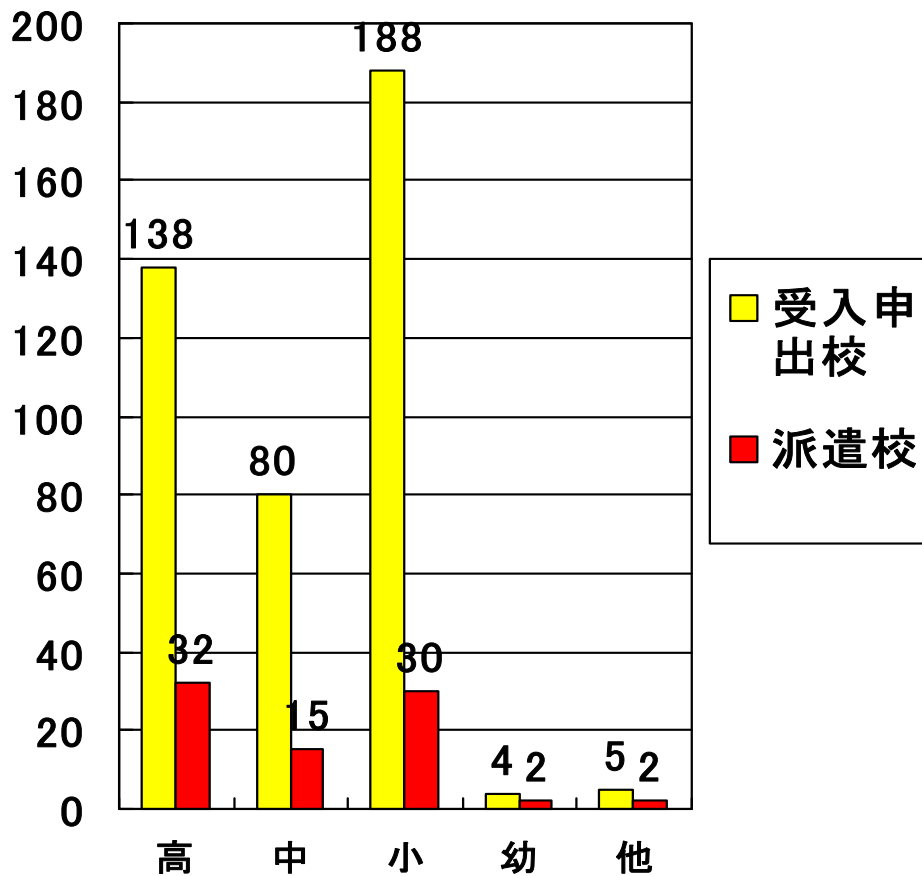
本取組の実績(3)

派遣した学生数



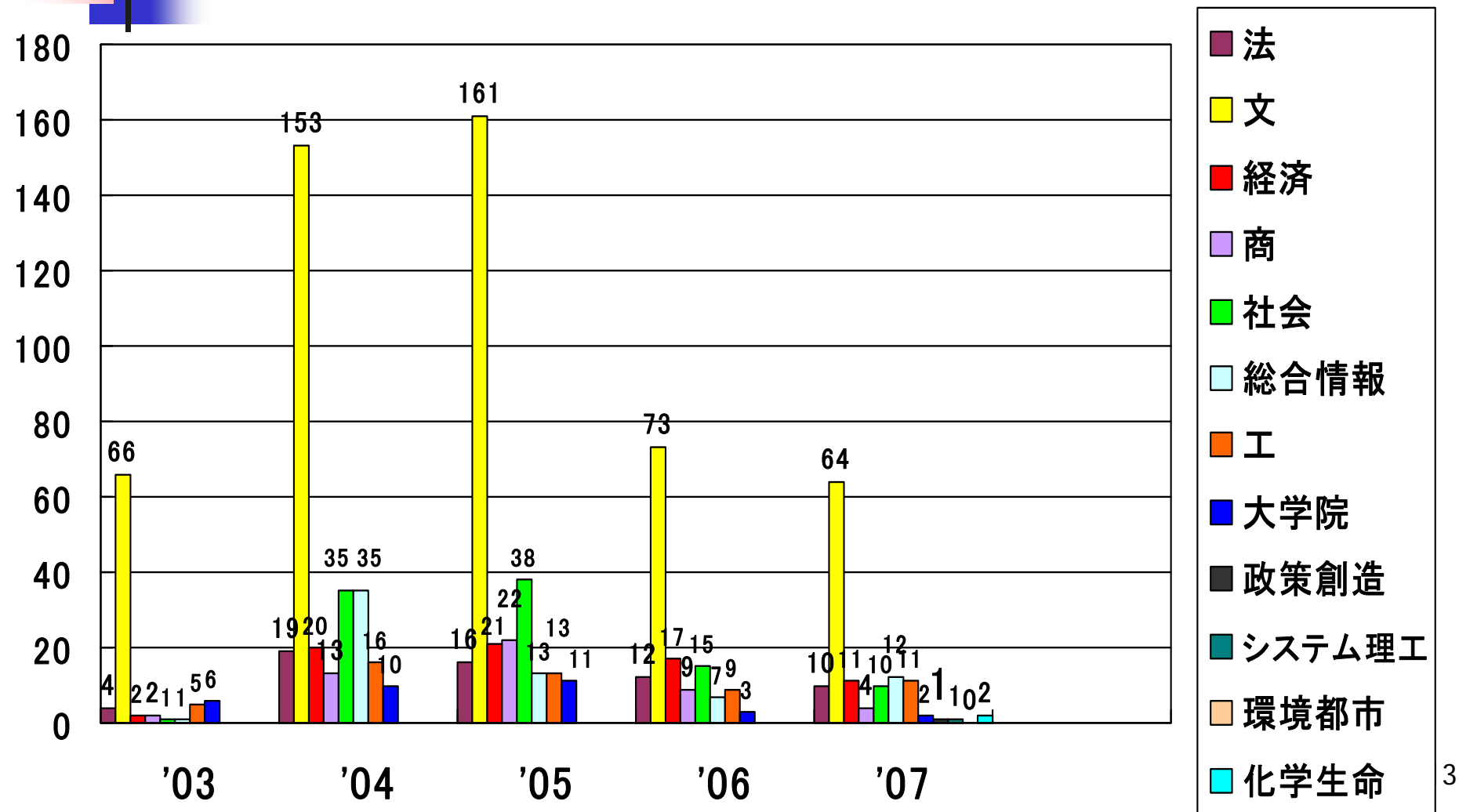
本取組の実績(4)

受入申込と実際の派遣の対比



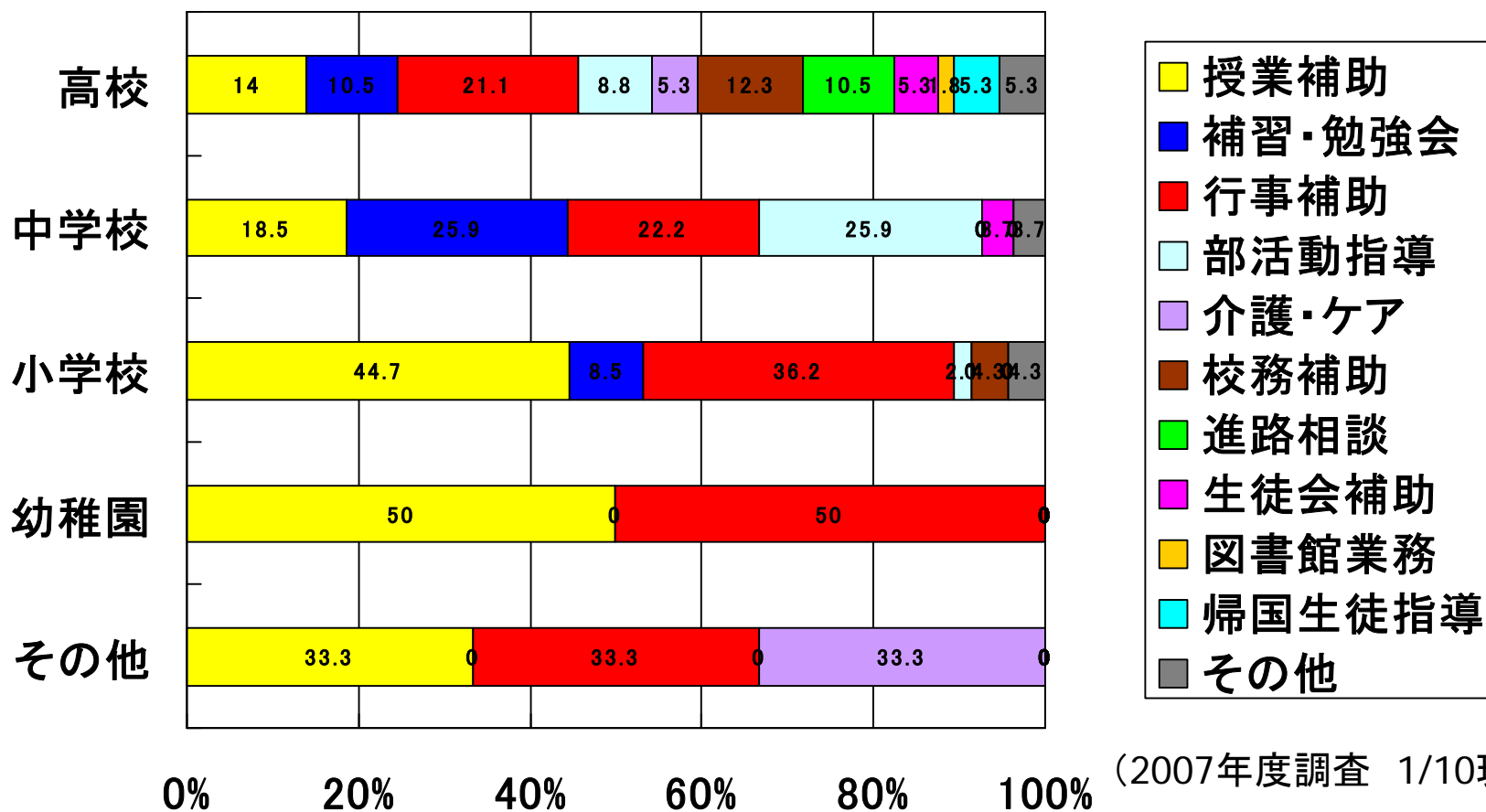
本取組の実績(5)

学部別学生数



本取組の実績(6)

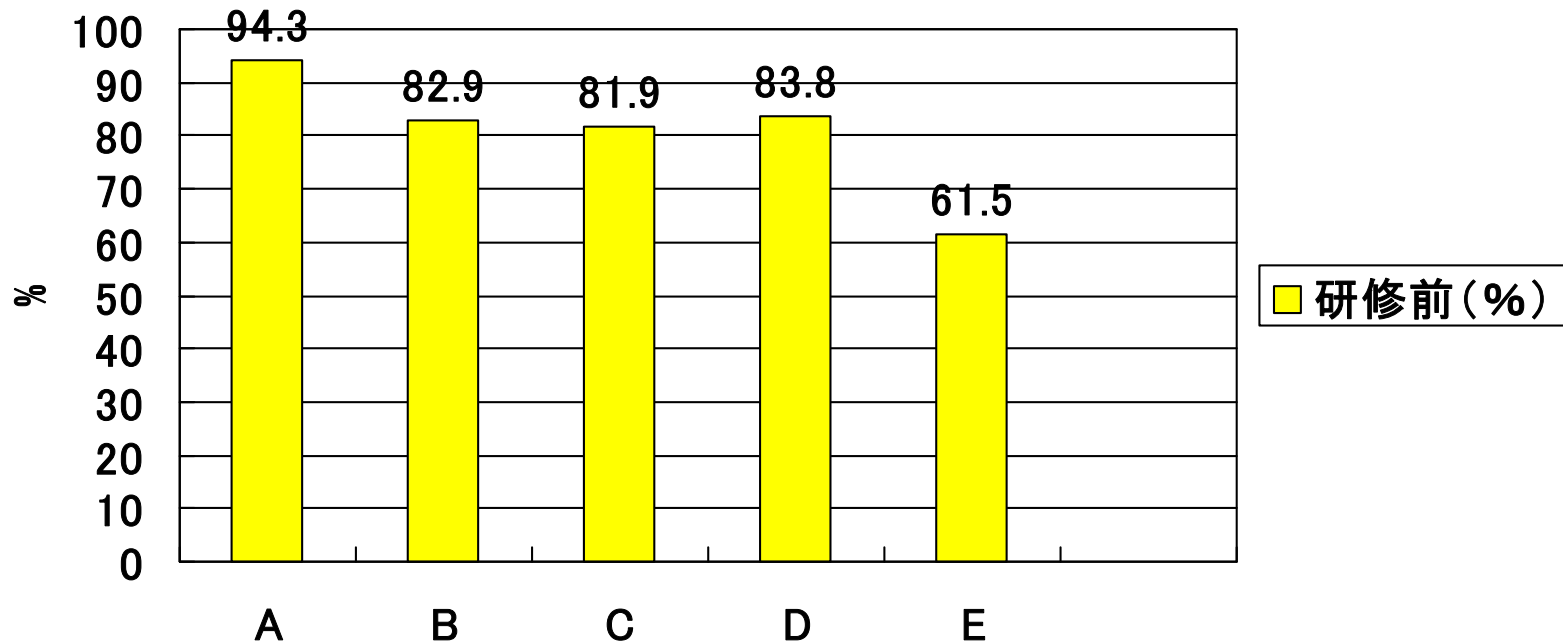
学生が研修した内容



本取組の実績(7)

学生が事前にたてた達成目標

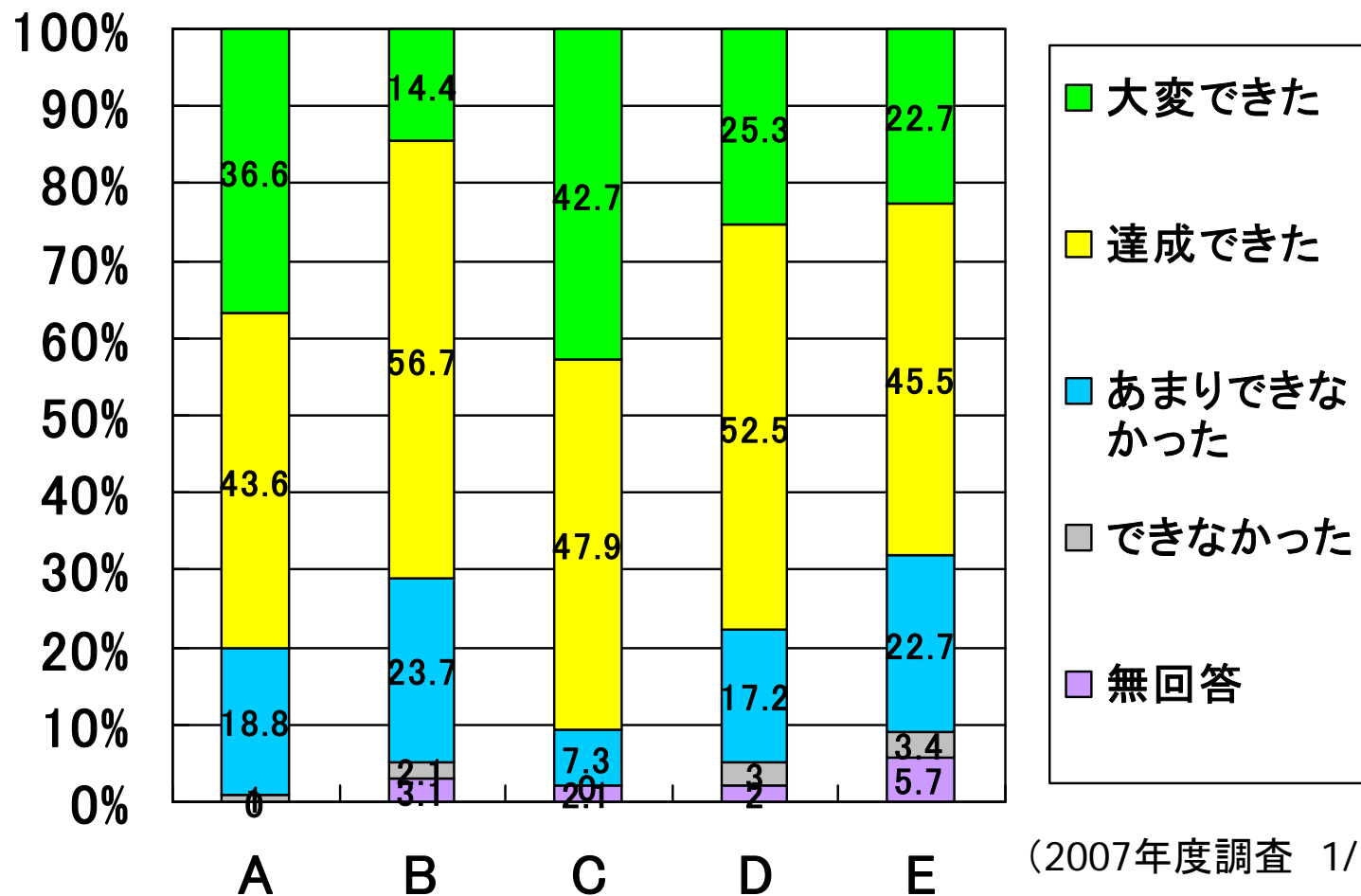
A: 生徒とのふれあい、B: 能力・スキルの向上、C: 教育実習と異なる教職体験、
D: 可能性の発見、E: 就職活動への意識向上



(2007年度調査 1/10現在)

本取組の実績(8) 学生自身による自己評価

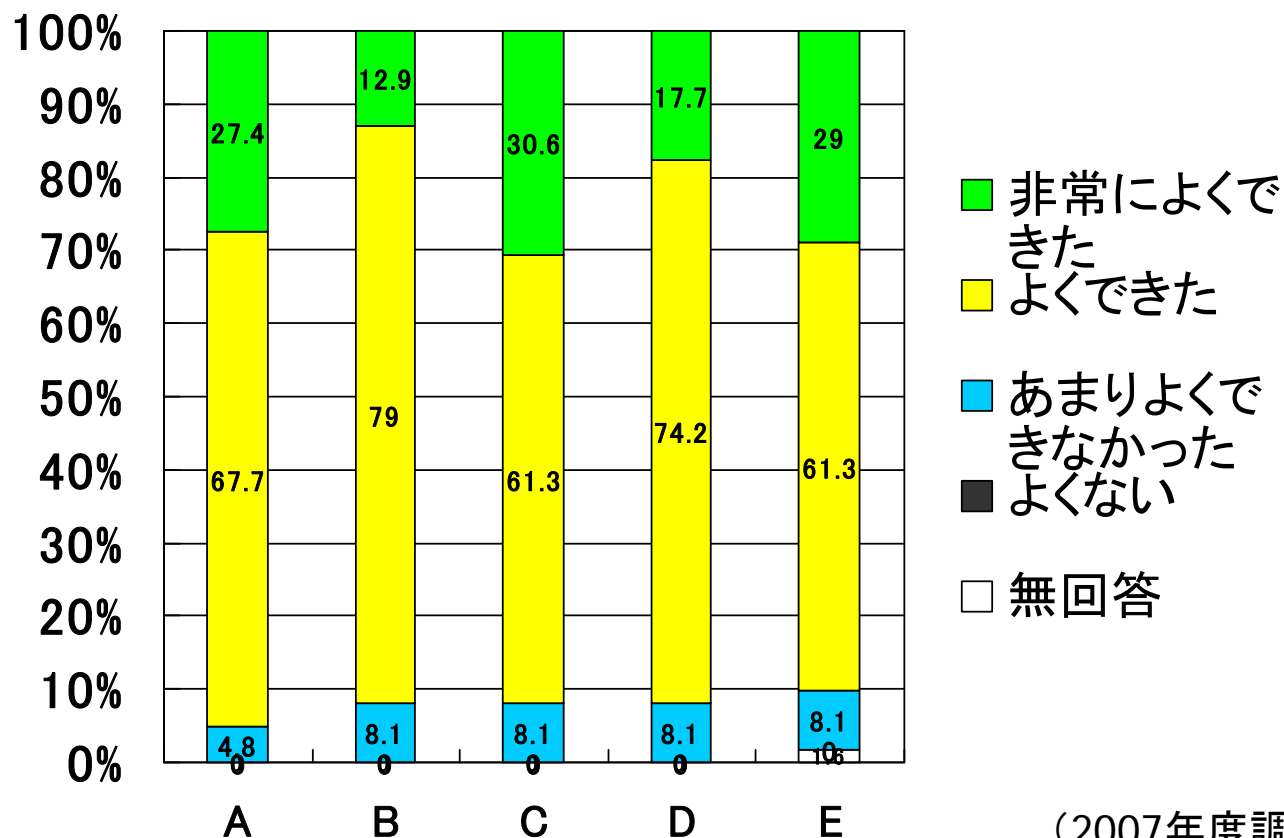
A: 生徒とのふれあい、B: 能力・スキルの向上、C: 教育実習と異なる教職体験、D: 可能性の発見、E: 就職活動への意識向上



(2007年度調査 1/10現在)

本取組の実績(9) 学校・園による評価

A:生徒とのふれあい、B:能力・スキルの向上、C:教育実習と異なる教職体験、D:可能性の発見、E:就職活動への意識向上



(2007年度調査 1/10現在)



本取組の今後の課題

- キャリア形成をうながす
 - 学生の人間的成長をうながす
 - ジェネレーションギャップの解消
 - 若い世代を介した小中高大連携
-
- それぞれの教育現場での連携の成果の検証とフィード・バック